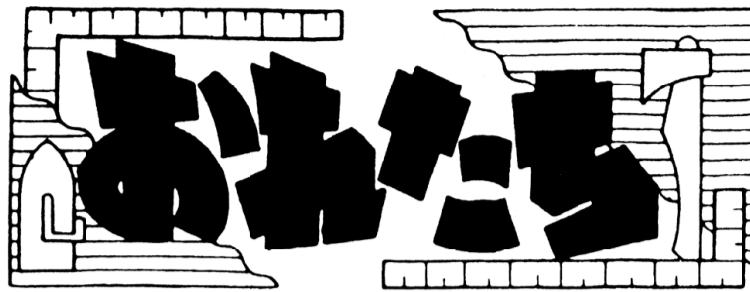


無料法律相談日の案内

12月21日(金)14時~16時

希望者は前日までに予約を

12月初組合員数=2004人(-9人)



発行所
東京土建一般労働組合荒川支部
東京都荒川区荒川6-3-1
TEL(3892)9131 FAX(3892)9381
発行者・津田宗久/編集長・増山國吉
http://www.doken-arakawa.org/



最後まで団結し頑張る事を誓う様子

建設産業の賃金は上がって当たり前

全国的な単価の引上げ請求運動を

いま、国の基幹産業である建設業界では、大きな転機に差しかかっています。それは大手ゼネコン・住宅建設企業が、空前の利益を上げながら労働環境の改善が進みません。

そのために建設現場では、「3K」「きつい」「汚い」「危険」現象が続き、また「3Y」「安い」「低賃金」「やめ」「廃業」「やらない」後継者不足という現象も加速しています。

適正な賃金・単価の要求

【南千住・竹達浩記者】

11月20日、全建総連は賃金・単価引き上げ、予算要求中央総決起大会を、「日比谷野外大音楽堂」と「小野外音楽堂」の二会場で開催しました。

都連では当日、朝新宿中央公園に集合して「全建設労働者対都要求請行」が行なわれ、対都交渉団の出發の後に参加者全員による



シュプレヒコールをしながら東京駅に向かってデモ行進

個人請願行動に移り、移動して日比谷公園の中央大会に合流しました。大会主催者あいさつで、三浦一男中央執行委員長は全国49都連・組合の4899人の参加者に、今大会の主旨は賃金・単価の引き上げと予算要求の二本立てと述べました。

環境は整っている

また現在の建設業界は、オリンピック開催に伴う潤沢な仕事量で、賃金・単価の引き上げの環境は整っている、全建総連として要求・請求運動を積極的に全国展開して、「建設業の賃金は上がって当たり前」という機運をつくりだすことが強く求められている。そのためにも今後一層各

政党・国会議員及び各省庁に、建設国保・その他への国庫補助について、また、都にも国保に対する助成の強化を訴え続けなければならぬと述べました。

意表明。「建設国保への補助金確保をはじめ、要求実現のため全国で力を合わせよう」と述べました。勝野書記長の基調報告では、国保への国庫補助については、「はがき要請の効果で概算要求は増額したが、予算編成で厳しい状況である」と指摘、今後さらに運動を強める必要を求められました。

4週8休できる賃金水準確保を 大手企業交渉

【西尾久・増山國吉記者】組合員の皆さん毎日仕事お疲れさまです。10月25日と26日の二日間にはわたり、大手建設企業27社に対して我々の労働環境の改善に向けた交渉に行ってきた。東京、千葉、埼玉、神奈川の4土建を中心に10都連・組合の仲間710人が参加しました。

初めに集会を行った日本教育会館では、大成建設の丸の内の現場での告発内容と、8回に及ぶ宣伝行動により現場の劣悪な労働環境を大きく改善させたことが千葉土建の参加者から報告がありました。現場労働者の労務費は、「工事原価」であることをこの企業交渉で要求し、元請の利益を現場労働者へ還元させ、賃金引き上げを強く要請することを中心課題に掲げました。

打ち合わせを済ませた参加者は、班ごとに担当する企業との交渉へと向かいました。荒川支部の参加者の4人は三井ホームを担当しました。交渉では、末端の労働者・事業者の賃金単価の確保について責任の所在は元請にあり、一次下請けに指導しているから良いというものではないという交渉団長からの指摘がありました。また、現場の4週8休は現在の賃金額からして難しい、元請として生活できる賃金水準の確保に努力してほしいという参加者からの発言もありました。

丸の内の現場の行動に確信を持ち、末端の労働者まで削られることなく、法廷福利費や賃金、単価の引き上げを求めていきます。何か現場で困ったことや、改善してほしい点があれば匿名で構いませんので組合事務局までお寄せ下さい。

新しい外国人労働者の受け入れ制度について、旧来の制度の見直しを含めて、様々な問題が提起されている。国会でもめにもめて政権政党が無理やり押し切ったと思える。日本経済の現状をみると、外国人労働なしに経済が動かないことは明らかだ。コンビニエンスストアや外食の店頭はもちろん、農業や建設現場でも多くの外国人の労働力に頼っている現状がある。昨年時点で128万人の外国人労働者が日本で就労している。労働力不足が多岐分野で顕在化している中で、外国人労働の利用の問題は避けて通れない。現状の我が日本の外国人労働の実態を調べてみると、制度が非常に未熟であると言わざるを得ない。高度な技能を持つている人の流入を促進することには必要だが、こうした人材の数が非常に少ない。他国で引く手あまたの高度技能人材を日本に引っ張ってくることは困難と云うことだ。そうした中で技能修習生と留学生という形での労働力が存在感を増している。技能修習の制度は重要ではあるが、その制度を悪用した低賃金労働が横行しているとするればそれは大問題だ。これまでの制度の問題点を是正し管理を強化するというブレーキと必要なる人材を積極的に取り込むというアクセルの両方で進めていくべきだろう。(虎)

青年部結成60周年式典

夢を持って働ける建設産業を目指して

総勢219名の参加で絆を深める

【青年部発】11月25日に青年部結成60周年式典が新宿京王プラザホテルにて開催されました。荒川支部からは部員2人

と五箇谷副委員長が参加しました。足立、荒川、台東支部が同じテーブルにつき、60周年を祝い乾杯の挨拶を交わしまし

た。

式典では第4代本部長を務めた斉藤正義さん（足立支部）の挨拶があり、当時の青年部活動を熱く語りました。なかでも、時給1,500円を求めるポスターを電柱に貼って廻った行動の話は、参加した青年部員の心に響きました。こうした先輩方の処遇改善を求める行動が、青年部活動の原点になっています。



元気あふれる集合写真の様子

近年、若者の建設業離れは深刻な状況に陥っています。若者が夢を持って働ける建設産業を目指して、私たち青年部員がその先頭に立ち運動を築かなくてはなりません。などと堅苦しい話になっていますが、「もっと休みが欲しい」「社長になりたい」「そんな若者の希望を実現に向けてみんなで頑張るのが青年部活動です。ぜひ、青年部の集まりに顔を出して一緒に夢や希望を現実のものに変えていきましょう。酒と一緒に飲む仲間が欲しいという理由でもぜんぜんOKですよ(笑)



浅野部長の乾杯の様子

日暮里1分会バスハイク海の幸と山の幸を満喫



楽しい思い出となりました

【日暮里1・川又好一記者】例年、秋の拡大月間中に開催している日暮里第一分会の観光バスハイクは、新加入者の参加や組合員同士の交流や家族との親睦を目的として開催しています。今年も10月28日に行い、47人が楽しい1日の思い出をつくりました。

秋の晴天に恵まれ感謝しつつ、出発時間の1時間前から、分会担当者達は準備に取り掛かりました。参加者は例年より早く集まり準備を手伝ってくれました。今回、参加す

町の救助隊チーム・ナマズ

災害時に備えた体験学習

【吉田和馬書記】11月27日、東京臨海広域防災公園で、まちの救助隊ナマズ全体研修が行われました。公園内の「そなエリア東京」では、実際に災害が発生した時の街の

様子を再現した大規模なセットに入り、タフレットを用いた体験学習を行いました。危険箇所の確認や災害時の動き方などを実際に体験できる参加型の企画に、参加者は真剣な様子で取り組みました。また、災害時に必要な知識を学べる展示ブースでは、多種多様な防災グッズの展示もあり日頃の対策が重要であることを実感できました。研修の後半には、起震車の体験



起震車で体験する様子

や墨田支部の救助隊ハンマースを講師に迎えた、簡易タンカ作りや倒壊家屋からの救助訓練を行いました。普段使い慣れないジャッキの使い方を倒壊家屋の持ち上げに使うだけではなく、大人も子供も楽しめるコリントゲームに使用した取り組みは、大変参考になりました。「災害時は圧死が死亡原因の多くを占めるが20代から30代の若者ほど家具落下転倒防止対策をしていない」との報告もありました。老若男女仲間だけではなく地域住民に対しても伝えていかなければならない、と防災意識が大きく向上する一日でした。

ることが出来なかった豊田さんも出発時に駆けつけ、参加者を見送ってくれました。参加者が揃いバスは三浦半島に向かいました。今年もミカン狩りから始まり、駐車場からミカン農園へ向かう道は農家さんで囲まれ、三浦大根などの野菜が青々と育っていました。ミカン農園では、たわわに育ったミカンが、「取ってください」と呼びかけているようでした。もぎ方の説明を聞き、農園では「この

ミカンが甘くて、おいしいよ」と声が聞こえてきました。袋いっぱい詰めたミカンを見せ合い、農園は参加者の笑顔であふれました。そして、ミカン農園を後にしたバスは三浦半島の農と海のまるごと体験パークとして人気の「ソレイユの丘」に向かいました。入口で記念撮影を行い、多くの家族連れで賑わう園内へ進み、お楽しみのパークメニューとなりました。お肉、野菜、エビ、イカの浜焼きを

自分たちで火起こしから行い、焼きあがった食材をみんな笑顔で頂きました。食事の後は、温泉、観覧車、ゴーカートやおもしろ自転車の走行を見たり、動物とのふれあい、お花畑で写真撮影など、各々で楽しみました。マクロで有名な三崎のお土産屋さん、「三崎港うらり」で買い物を済ませ、お腹もお土産も思い出も、いっぱい持ち帰りしました。事故もトラブルも無く無事に日暮里第一分会のバスハイクを終えました。

消費税10%やめろ

世直し雷大行進

東京東部地域の業者、労働組合、農民団体、市民団



先導するちんどんマン

体などは11月18日、台東区花川戸公園で世直し雷大行進の集会を開きました。参加者は約1000人でした。

主催者を代表して田中茂実行委員長は「安倍政権を我々労働者の力で世直しをしましよ」と力強く訴えました。

参加者は「ちんどんマン」を先頭に、「消費税10%増税やめろ」「労働法制の改悪を許すな」「憲法25条を守れ」「9条改憲ノー」を沿道の市民にアピールしながら、隅田公園までデモを行いました。



近代日本の天皇制の基礎は幕末の国学者、平田篤胤(あつたね)(一七七六〜一八四三)の登場

によって、日本古来の宗教の復古神道と天皇の融合によるものとおもわれる。篤胤は、天皇の神聖、

国体の尊厳を説き、「我が天皇命(すめらみこと)は、万国悉く所知看(しるしめ)す大君に大坐(おおまし)ます事を伺い奉り、わが古学は万国の本(もと)つ学びなる事を弁(わきま)ふべし」「玉だすき」よ

り」と述べている。この平田篤胤の国学の排外性が、黒船来航で尊王攘夷運動という具体的な行動となり、尊王攘夷運動はやがて倒幕運動へと変質していき、明治維新を迎えました。

安倍9条改憲NO！ 荊市民アクション

【西尾久・小野澤富彦記者】11月10日17時より荒川

遊園入口、スポーツ体育館前にて、憲法9条を守る市民アクション、荒川遊園共同街宣集会が行われました。西尾久9条の会、平和憲法を守る会、東京土建、新婦人、16区市民連合など27人が参加し、安倍政権が進める9条改憲に反対する運動を行いました。当日は天気も良く来園者



子供に大人気のタイガー

も多く、虎のぬいぐるみで仮装した、タイガーアクションが若いカップルや小さな子供達にティッシュペーパー、風船を手渡し好評で多くの方が足を止めてくれました。市民アクション参加団体の代表の人達がマイクをにぎり9条を守ろうと通行する人達にシール投票や署名を呼び掛けました。土建からは、津田委員長を始め数名が参加しました。

これは変だよ！改憲論



憲法は国の理想を語るのか？

「国の理想を語るものは憲法」。安倍首相の持論です。秋の臨時国会でもこの

フレーズを繰り返して、改憲を訴えましたが、憲法への認識が根本的に間違っています。憲法の役割は、国民の自由と人権を守るために国家権力を制限することにあるからです。

民主国家では議会の多数決で法律が決められ、国民はこの法律に従う義務があります。しかし数の力でどんな法律でも通せるのかといえば、答えはノー。憲法の枠を越えた法律は許されず、作ったとしてもそれは違憲＝無効です。

憲法に国の理想を語らせるといふ事は、時の権力者が自分の理想を憲法に書き込むことを意味します。安倍首相や自民党の理想は、憲法で権力が縛られること？それとも理想の名のもとに国民を従わせること？どちらでしょうか。

改憲阻止へ立ち上がろう 労働弁護団が呼びかけ

日本労働弁護団は10月25日、「安倍政権による憲法改憲に反対する声明」を発表した。改憲の危険性を指摘し、日本のすべての労働組合と労働者に対し「憲法改憲を阻止する運動に立ち上げる事」を呼び掛けた。同弁護団が憲法問題で声明を出すのは異例だ。声明は、自衛隊を憲法に明記するなど安倍政権や自民党が目指す改憲について「集団自衛権の行使が違憲ではないことを憲法上明確にする趣旨」だと指摘。戦争する国への道を突き進むことになるといふ懸念を表明した。

新たな発展を期し 荒友会15周年記念祝賀会開催

【南千住・小川隆志通信員】荒川支部荒友会は11月9日、15周年記念祝賀会を荒川区役所内「レストランさくら」にて開催しました。



立川談修師匠の「目黒のさんま」公演の様子

た。次いで葛飾支部横田会長より、丁寧な祝詞を頂きました。和やかな歓談の後、立川談修師匠の「目黒のさんま」の熱演に会場は爆笑の渦に包まれました。現在荒友会は数々の課題を抱えております。それは春秋の拡大目標の達成、会員の活動への参加者増、活動のマンネリ化の打破(社会奉仕、平和運動の実施)等です。「入ってくれより入りたい」荒友会を目指して、会員一同邁進する事を誓い散会しました。



ひとくち映画情報

『葡萄畑に帰ろう』

エルダル・シエンガラヤ 監督



名作「クリスマス・キヤロル」誕生をめぐるファンタジー映画です。生活費を稼ぐために何としても新作を書かなければならない作家チャールズ・ディケンズ(ダン・ステューブンス)は、メイドのタラ(アナ・マーフイー)が「クリスマスにはこの世とあの世の境がなくなくなる」と話しているのを耳にします。チャールズはその話を元にクリスマススを題材にした小説

を思い付きますが、出版社の反応は鈍いものでした。イギリスではクリスマスが家庭の特別行事としてまだ定着していなかったのです。編集者の「売れないものを書くな」という言葉も聞かず、チャールズは執筆を開始。しだいに物語の世界にのめり込み、主人公の老人スクールジの幻を見るようになるのでした。11月30日から全国公開。

仲間の横顔

山口 秀城 (西尾久)



仲間は家族も同然



10月25・26日、全建総連は第68回建設住宅企業交渉を開催し、ゼネコン27社、サブコン3社、住宅企業8社と交渉しました。企業には余力はあるのに現場には法定福利費が届いていないなどの改善要求をする運動に初めて山口秀城さんが交渉団の一員として三井ホームの交渉

に参加しました。企業に対し積極的に質問や意見も述べ「法定福利費は請求しても必ずしも貰えていない。工期などの問題もあり、完全週休2日制は取れない。現段階では理想論でしかない」と訴えました。は初参加をした西尾久分会の山口さんの紹介を拡大版で掲載します。

自分が、内装業(ホード工)に携わったのは、20歳頃でした。仕事と言うよりは、遊ぶ為に働くといった感じでした。それも、夏場は伊豆七島の式根島でバイト、冬場はスキー場でのバイトと、春と秋だけ内装の仕事をしてきたと言った方が良いでしょう。そんな生活を5年ほど続けた時に、今の妻と再会しました。妻とは中学校の同級生で、昔の事はさておき、この子の為なら真面目に働いてもいいかな?と思いい、本格的に内装の仕事を始めました。

家族のために

独立はしたものの、何も分からず全てが初めてで、思うようにいかない事も多く、今思えば、妻には迷惑をかけたが子育てや家事をさせて来てしまったと思っております。結婚をした翌年に長女が誕生し、2年後には次女を授かり、またその2年後には三女と、今では4人の娘に末っ子の長男と5人の子ども達に恵まれ、無我夢中

で働き、平成16年に有限会社として新たなスタートを切りました。

仲間のために

9年前は、昔に夏場の間バイトをしていた式根島に、総合格闘技の道場と鉄板焼きの店を出すことができました。以前の格闘技ブームの頃は、選手には沢山のスポンサーが付き、ファイトマネーも良く、十分な生活が出来ていた時代がありました。そんな時代もいつしか変わり、それだけでは生活することは難しく、バイトをしながらジムに通い試合をしなくては成り立たない状況です。そんな選手達に「何か出来ないか?」と考えました。それ



仲間が楽しみ、自分も楽しむ

が、式根島で合宿形式で練習をし、海で遊ぶ、温泉で身体をケアし、美味しい食事を提供出来る鉄板焼きの店「佐助」でした。今では、鉄板焼きの店も繁盛店となり、海の日1週間前に島に行き、9月いっぱいには島で過ごす生活です。内装担当の従業員達には迷惑をかけたが、信頼関係で現場を任せ、そんな仲間のおかげで両立できています。

働けなくなった時の所得減少に備える補償制度「所得サポート保険」団体長期障害所得補償保険の取り扱いを開始します。労災、日常生活での病気やケガに加え、精神障害が原因で仕事ができなくなった場合の所得の減少が仕事に復帰できるようになるまで、最長70歳に到達するまで(精神疾患は最長2年)補償されます。

5万円まで、最高50万円加入する事ができます。組合員と同居の親族が加入対象ですが、専業主婦や学生など所得が無い方は加入できませんのでご注意ください。25%の団体割引が適用され他、総合共済や土建国保の給付等で180日間の免責期間を設けることで、安い掛金で実現する事ができました(介護医療保険控除の対象になります)。掛金は月払いで、毎月指定口座からの引き落とし、毎年自動更新となります。①契約ができる範囲は組合員本人②被保険者になれる範囲は組合員本人、同居の親族 ※①②ともに15歳以上64歳以下が加入対象となります。

1ヶ月の補償額は10万円(補償)開始は19年3月1日からとなります。加入手続きは支部備え付け必要書類を12月27日までに担当代理店にご郵送ください。

組合員の声から実現した 所得サポート保険の取扱開始

集まれ! 救助隊

荒川支部では、大規模災害が発生した際に、消防署や消防隊だけでは対応しきれない場合に、地域に根付く建設業者の組合として被災者の救助を行う仲間を募集しています。

荒川区との災害協定を結び、ルールに基づき救助活動を行います。一定の規模の仲間が集まらないとこの取り組みは成功しません。

下記の日程で結成式を行います。定員は50人ですが、修了証が発行される普通救命講習も受講できます。是非、ご参加下さい!

日時: 1月20日 午後1~5時 場所: 荒川消防署 定員: 50人